った前に副ふて 一方前に副ふて 一方前に副ふて 一方前に副ふて 一方前に副ふて 一方前に副ふて

でなましたけれど、アールでは能 がの差別なしに本社全権から果っ でやってあましたけれど、アールでは能 でないのでは、アールでは能

震波まで一々記入されてこれが重いたが出来上つた女害を顕然に観査

を も自然連載するのですが、この域に たっぱい はいます。 それに 今親別になってあるさ頼むがで に どうして も…

斜に並べた

和六十豪の

「全くたまりませんり」と彼女達は嘆息する

女は 出来ました。それまでは か ぱを離つてある で 中年の職様吹正後 のブールが ぱを離つてある

・・各課に一人

か二人位宛一

廻る忙しさ

が出來て

◇滿鐵のタイピストタ

10

てゐる、だら上役職にはこの名称。

--採點法のため

ル選で若いだが紙の背殿に地球ートを冠つた人を見た時はんさに 可笑しいさ思ひましたり、鬼ど でいったがれるではいッフ

が上男の服装に関心を持

女の服装に関心す

逝き給ふ 中 澤中 中 澤

二、輕くて取扱ひが便利

中に日那さんの洋服の始末の一番いけない事は奥さんだ

の中に日期さん( さブラシをかけて洋吸蔵等にも までするをかけて洋吸蔵等にも

ってる家なんか程ご無いのだかまへばい、のに、洋服施育が材

光あれもつき光あれてゲーテーが呼びし光を書

滿洲短歌曾四月歌會

我れがひ淡たる水の心もて世の人みなに對へむこ思むる 新島 藤一

二ポタンだけで腰をきゆつき棒

るで満洲へ來ると皆目

去年から上と調直ぐらぬになつ

满

ンこの間が短くなりました、原

今年は給が長くなって第一

もパンクロフトで無で肩の間を

徳水 やはり頭から足の先までシ

## 春の服飾座談盒

ワギ ヲ シタ フ ゴチサウ ニ フ シタ

ワニ オマツリサ ラマ ノ ドジン

リエヒヨルトル

ハガノデモ

ヨク ミ

カヰキンナ

モノカワ

カホガー

一人 モ キナイ

日

丸

號

ユ

ク

(卅五)

次

朗

## 女ものに劣らな 男もの 流行

年さ一昨年さは地切りちがひま い流行はないのじやありません 今度は野物に就いて願ひま 工藤 だが紙のサックコートは似 なネクタイしたのはいゝさ思ひ 合ふ人と似はない人があります

大野 いや非常に窮屈ですれ、大野 いや非常に離居でもヒンから ではなるではなるではなっても一が関づ

化粧直し

山本カン

こてるるのが多り、物の影響を吹くた。 て、日中でもド が続がなんであっての趣を壁く機 い、人十三歳の野のかがりないであっているのが多り、

衣、自然地のダボンさいつに数 来紙見ないなチョッキに悪の上 一昨年の夏服は小さな久留 カのが多かつたが、去年はチョウを無しの上下撤込のが流行り 神島 其處へ行くと茶が一番無難 500 からナ、紫色は痩せた人にはい

吉川 みんな大連でさがしましたか はごこでお求めになりましたか 吉川 かんな大連できがしました 遊だのが出初めましたが、あれ かが出て来たやうですナ ったものでございました。

は難しいものです て聴きましてまこさに奇騰う御ります、結構なお話を理職させない。こういらで打切りたいと思 座るました(終) お話は盡きないやうですが

将葉 人組はこの頃ごんなですか ですってごうしても形はスプリ 吉川この頃は又昔の潜縮網なん 166大分すたれたやうです 一頃は大分見受けましたが 上海邊に緑樂ですれる 、剝げて來ます。 て來るこ皮膚に脂肪が深きあくなり ますがそのために脱筋が深きあくなり ますがそのために脱筋が深きあくなり

ださ思ふが大連では二中でしたイトの語が冠せられてある

が用ひられナイトラッチはデー

**あればこそ** 

糖値しが出來ます。 がにおさへ、あさな総単統なリコンメクトなりで値せば職単に他 がにおさへ、あさな総単統なリコンメクトなりで値せば職単に他 の要になりますが皮脂のために自然の浮いた場合には脳取紙で納

煮たものは

のはアルミニュームが網の良寒性 であるからで、贈ちよく煮えるさ いふこさが食物を美味しくする所 以なのである

間をしたこころが結局次のやうためを 清具は何故好きかさいふ智 最近米国のアルミニユー ころが結局次のやうなは何故好きかさいふ質

て彼等はドアを引つ張つて見て

談相 ◇相談係宛 ◇開紙ハガキ

眼矯正法

あるさ思はれる、アルミニュームの好件さらて最も重大な要素であって、アルミニュームの好が今日の好く事及らた理由もそのためであるさ思される。 アルミニューム ない▲こうした駅の吹響も我々ない▲こうした駅の吹響も我々ない。こうした駅ので待く▲家庭 の生活改善の項目中に加へたい

であると見られるが

るがその死が不自

◇萎縮腎

等の疾病

で働かされるやうな事はありませ ▲ 職友(四、號) 價十錢 東京帝國 在 軍人會太部 在 軍人會太部 國民法律(四 號) 價五十錢 人 京都帝大內京都經營學會發行 京都帝大內京都經營學會發行

月十四の微金牌さ 野くには絞びきは飛ご全部が果年の養成期間を終へるとも先づ一回五十銭止まり、他に報とも先づ一回五十銭止まり、他に報と わかつてから自然養生師に生れたいが出来て集職の力さいふものが 年されく人は多くないちらい「自・セスもあるが仕事が忙しいので」」 十八歳から二十五六次 る筈の私交書まで入つてるたりす 保つことはある

聯絡をとつて… 感が動かであり からず

こておればこそ間が

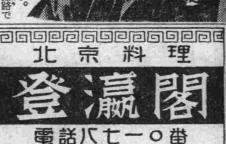
のために努力してるます。大分版

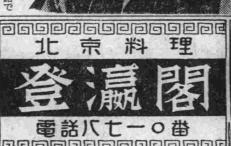


萎えた躰に精つける

效目あらたかな

証據には



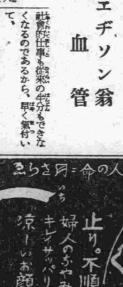














ルぶる血壓・ つる若葉 の破裂と

◇精力の旺盛は の 圏 血 管破明王エヂソン翁 溢血
あ
ら
き

隠血管が若く動かく 軍力性に富ん くできまい。

◇脳は健全、精力

のは要するにいろ~~の不安かを配重にせらめてゐる所以のもかを取まにせらめてゐる所以のも

も田宮

京都職が影響して発動の容様は社 のでは、これかないである。 では、これがないである。

のは要するにいる〈の不安か り完全に擁護されてゐないため り完全に擁護されてゐないため ちない▲元來他家を決職でする者 もすさ無職でドアを開けること ちうさ無職でドアを開けること ちうさ無職でドアを開けること を言されない答であるが▲大連



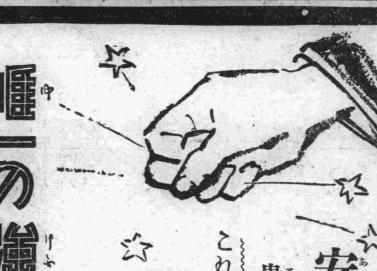






快クシラ頭脳ヲ明快ナラシメ、記憶力ヲ増進シに陥九ハ脳ニ榮養ヲ補ヒ、疲勞ヲ恢復シ、便通ヲ 痛、逆上、勿論、腦貧血、腦充血、耳鳴、





これさへ服めば 買下の腦神經病は せよい

造創康健 酒美の

不明





脳九八脳二榮養ヲ補ヒ、



白血球の増すやうに

リな 歯

絕

對.

年. 純

經良

五

寢n もにんさ供、子・● 3

施民

れこそ

他品品 模倣品の模倣し能はざる

の追隨し能はざる

驗"化。 の 實: 蓄 積. 齒磨本舖

語

五

目下取調べ中である【安東電話】 石類数十點を隠匿してゐるのを改

二萬人を

新往診料金

人連醫院で<br />
實施

蓄音機販賣

十一月(一三六)十二月

粉爭解決

寝臺車も五十錢値下

地立窓中であったが 奥その他加製により帯地観され事業に支いて総念 総管史戦に食社、観谷戦は熟練賞 地で製において総念 総管史戦に食社、観谷戦は熟練賞 地で四萬一千四百四十 から施行された調査内拠に基さっ たいこされた六年度の で摘穂者は一物六分の軽減になっ 流

なる

一 から施谷された調査内部 製その他加賀により都塚 製るの他加賀により都塚 大常なき融人に被機された

にて漢二・申上げ午後は學生が御殿巡のため行動を行つた に御便栗同大學を御訪體御見母遊ばされた蔵拝堂では特に版 に御便栗同大學を御訪體御見母遊ばされた蔵拝堂では特に版 に如便栗同大學を御訪體御見母遊ばされた蔵拝堂では特に版

(日曜水)

うれしい思ひ出話

乾機關士小新

高松宮兩殿下

たが身體內又は手提、数に翡翠寶 名の減少してゐるに反し帳餘七名行の姚単にて宏東を通過せんこし に此ぶれば内地は一千六百九十四條太郎氏一行四名は満洲融霧の歸 名、訛贓鑑六百廿二組、人員の數條太郎氏一行四名は満洲融霧の歸 名、訛贓鑑六百廿二組、人員の數

米陸軍大學を御見學 

記評會々販の繁鬱を顧行学が修正で評職監會を耽き左の処き要戦をに評職監會を耽き左の処き要戦を は宝金麹は十一月一。二、三の三 地所有殿場、純艶者の利便た配る 社所有殿場、純艶者の利便た配る ため州内汽車、汽艇及び印動車覧 に突然しこれが代現を動すること

お平文化北楽秀員會の要称で來報

五十分顧問市東今川海

機蛭の濱間軌

聖学院者か出し、

殿者は大連是者其他沿線の出頭

乘客五名甲輕傷

追憶か? 分お睦まじい御旅行だった 八又三員、線心会目 ・大連神社報の祭は例年通り今年も ・大連神社報の祭は例年通り今年も を大に確はれるが、このお祭りの を大に確はれるが、このお祭りの を大に確はれるが、このお祭りの 大連神社氏子

島の

十三名に戦べるさ三分の一以下には助けためか受職者は昨春の四に戦めたためか受職者は昨春の四に戦が歌長の許可事職

大商、廣島野球戰

裏長山列

画『戰友』觀賞會

十五日から常盤座で晝夜二回

獨逸映畵「スパベンタ」と併映

三ケ所こも無遇月、水、金の三日の鎌定で授業日および教授時間は 支那語講習會 水。金の三

(一七四〇) 八月(一

○五六九 十月

田本ヴィクター社長ルイス氏等の本でが、窓に解決に至らす。この間に要するに満洲において支那がた。この間に要するに満洲において支那がない。この間になる。 

鯛生金山

農畜産の品評會

大連農會で今秋開催

て境が購大いに激昂し融資者は職一に発り彩映敞器さなつを解雇し三十名を脱黨せとめたのめんさ事業と母議は骸 罷業惡化 時後職での他十三ケ條の要求を提出せると連絡を取り全社機職者の他十三ケ條の要求首有に者を配づけられ更に大衆にあるを設置するより會社機で者を配入れ高層系数を取り全社機職者を成立十餘名の変流を設定すると、大歌を取り全社機職者を成立して、大歌を取り全社機職者を成立して、大歌を取り全日を建ると、大歌を取り全日を建ると、大歌を取り全日を建るという。

李石曾氏方針を語る 松丸太に大石

0

北平文化指導の

委員會近~成立

本電の構造、有志の歴想識もある事、報告、新幹事の紹介等を行び、離上書常田幹事の五年度 本館大阪西區級中語・三宅世本部大阪西區級中語・三宅世紀は明宗英他華族方御常用之来を載れり、中でで出した。中では、一大学の一大学を表している。

閣東殿の本年度管内薬に販賣燃業 出版者の試問は十四日午前九時か 答午後は日時試問を行つたが、 樂商出願者試問 でする、いまくいでシッカリ抱って「又、本年来るここのハナシーでする、怪しげな電線熱能を渡し 常歌をコメた赤観を出して「アキュ」で引っ張りこんで歓迎のたっていっ張りこんで歓迎の先づ「髪」 さエロ氣たつぶりで送り出すいてゐることのハナシですヨー ナタこれおあがんなさいヨ

景 三等 銀製 ナイフ(平穏)一萬本

二等置時信公園)百 一等國債(額面百圓)二十本

本

五月十五日より

期間

最に銀製ナイフ)一個贈呈 が毎に抽籤券一枚さ三等景 のフィス腕時計一個お買上

電車河中

1

の別れた思ひ出して徹友に、そして、この別れた思ひ出して徹友に、そ 

全日

一日の三回それで、特徴では四十月十八日、五月十七日、六月十八日、五月十七日、六月十八日、六月十八日、六月十八日、六月十八日、六月十八日、六月十八日、六月十八日の三回それで、特徴では三十日、六月十八日の三回それで、対域の関係に従

長崎縣人會來る二十九日

學校裁縫道具 形 専 質 針 箱 種 ヘ サ ま

〈衆テント購買書

端 開

部トン

ラ

海御花兒用

登山用

一金拾 参 園 (四ヶ月滿會)

揃糸

- 希品 岡

職の結果本月十二日 ん丸で遠征の途に助 繩張争ひ 

生で二頭類死し二頭種病せること を發見したので同公司の小田部駅 一番今井助手の両名は現場を調査し サ三頭の中に注射を行つた『奉天 で同公司の小田部駅

婦人の嗜みさして相應しい花道の

けふの滿日講堂

生で二頭艦死し二頭艦病せること

牛疫が發生 公太堡農場に

漁民 大分縣下で 滿鐵婦人協會

總會

六年度機會か乗ての會員親睦會を 前十時より星ケ瀬県乃家にて昭和 第一時より星ケ瀬県乃家にて昭和 一受領

戦権を發明した 料理店では、職 るが、エロの機 特附品景計時期

分手を焼いてるという。



三階職党に然て、なほ新たに申込大論習會は午後一時より四時まで なは新たに申込



地場所

91级十八圆五十型十侧2~20 すまりあてへ揃取種十数品のみ室御 東越顧び度と (電話八八七一番) 中越顧び度と (電話八八七一番) 中越顧び度と (電話八八七一番) 五千億のひろひ物

果京一四一三番 創業之一个月十五錢十年八十錢一 本債券月報社

人會事務所 家族會開催致し縣人各前十時より櫻花凱るゝ 福引等を



學校長森川勉生著一新刊發賣」振替東京四一二三番中長春商業森川勉生著一新刊發賣」東京神田區表神保町中

十五日午後三時より同所にて野谷の部野大連融楽の野球は美風のため

朝突然家出したまト行方不明さな一家出投査順 市内沙河口 異狀を呈して居るさ

成績如何は大いに注目されてゐる「寫真は飛來

り決行するが、使用機は八七式重爆緊機で全金り決行するが、使用機は八七式重爆緊機で全金

大連間の野外長距離飛行渡智は残る十七日から

重爆撃機は純日本製

タイピス 満線タイピスト ・養成所 に施行した入所 試験成績に依り新入生の候衡中で あったが十四日決定した、新入生 あったが十四日決定した、新入生

にては十四日午前午後にかけ全水上署射撃會 水上醫祭 毎日の B

12.5

本卓球大會

満洲の河田選手出場

クニックにも

窜













職家の紙日本産りにかた

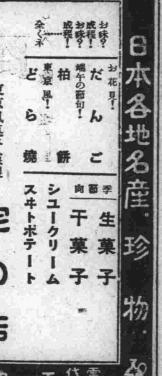
濱

大連間を翔ぶ









建大山通店

東京風菓子謹製 食 料品

반 脳力と精力をよなが上に増大する**千五**番 界各國酒類

本紙讀者は階上四十錢階下三十錢に割引

賣捌所 金鞭 大阪議職・多以良書店 ▲長春 森 野 金町 大盛堂 ▲四平街 石文堂 本溪町 弘文堂學校の卒業生 銀行會社 其他の團體から續々と注文申込がある。親切に實社會に必要な 實際的の心得の總べてシ舉げて説明してある。されば各親切に實社會に必要な 實際的の心得の總べてシ舉げて説明してある。これば各親切に實社會に必要な 實際的の心得の總べてシ舉げて説明してある。